

2011年度決算 経営戦略進捗状況説明会

2012年5月17日



住友金属鉱山株式会社

説明内容

I. 業績推移・資産内容

II. 09中計戦略進捗状況

III. 外部環境

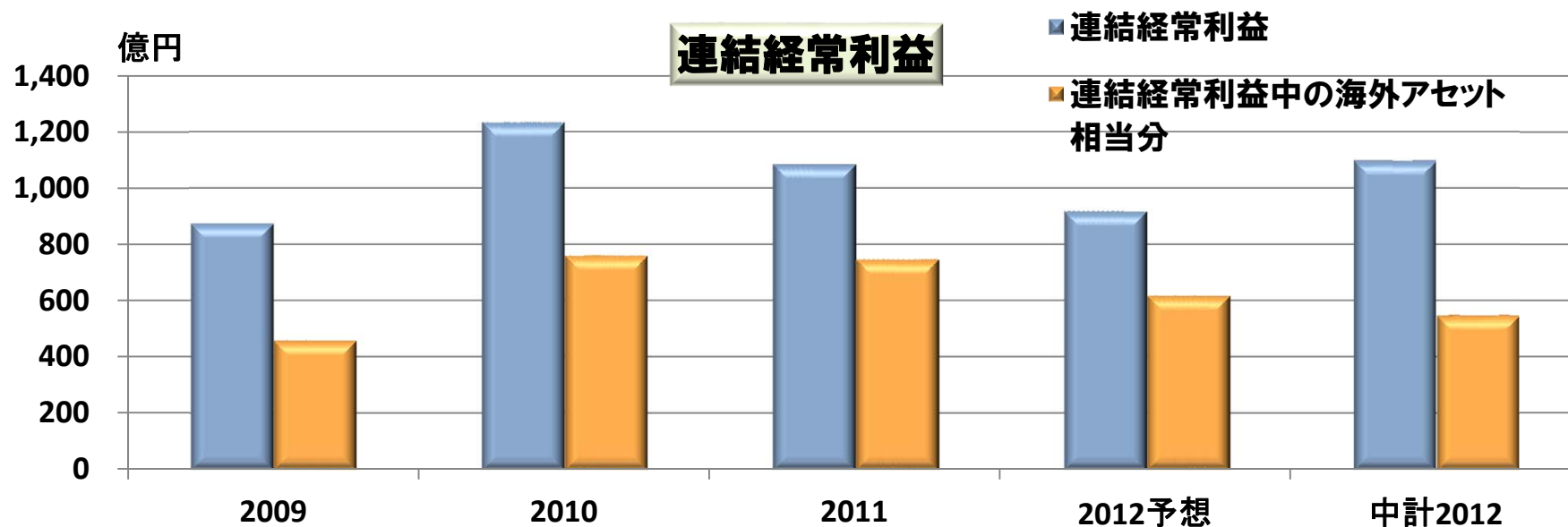
IV. 資料編 業績ハイライト・感度分析

I.業績推移・資産内容



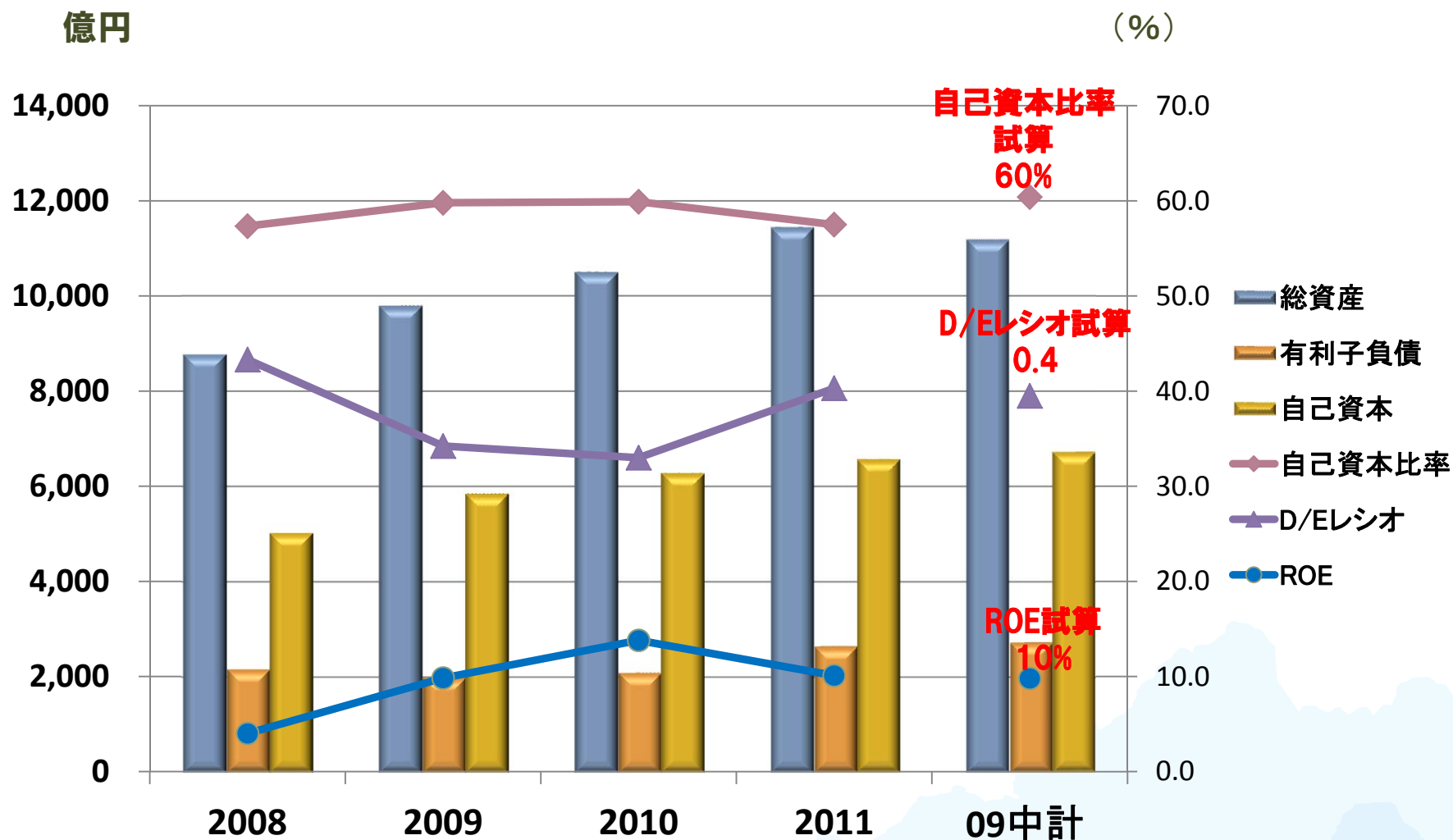
シエラゴールド プレ・ストリッピング

1) 経常利益の推移



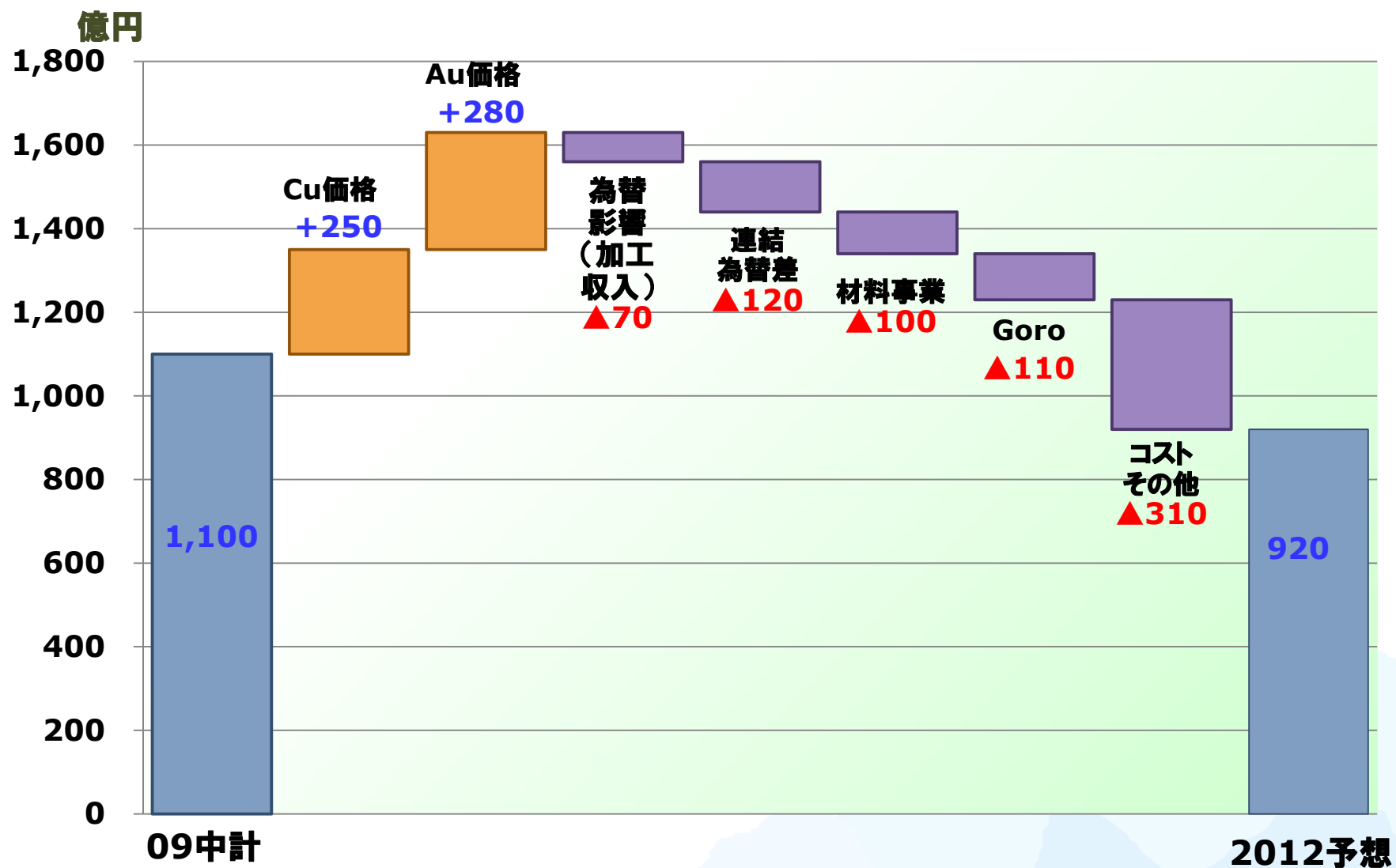
	2009	2010	2011	2012予想	中計2012
連結経常利益 (億円)	878	1,237	1,088	920	1,100
連結経常利益中の海外アセット相当分 (億円)	461	763	749	620	550
Cu価格 (\$/T)	6,101	8,140	8,485	8,500	6,000
Ni価格 (\$/lb)	7.7	10.7	9.6	8.0	8.0
Au価格 (\$/Toz)	1,023	1,294	1,646	1,650	1,000
為替 (円/\$)	92.9	85.7	79.1	80.0	90.0

2) 健全な財務体質の維持と活用



2011年度2Qに社債を発行 引続き安定した自己資本比率を維持

3) 経常利益分析 (2012年度予想vs中計2012年度)



II. 09中計戦略進捗状況



シェラゴルダ ダンプトラック

SUMITOMO METAL MINING CO., LTD.

1)資源①海外資源獲得三つの手法

1) 自社探鉱

マジョリティ獲得可能
操業開始までに相当な時間要する



(Stone Boy Project)

2) 開発案件への参入

比較的短期での稼働可能
マジョリティ獲得困難
他社との競合 支出増の危険性



(Sierra Gorda Project)

3) 既存鉱山の増産

パートナーの力を活用
大型増産案件は少ない
権益比率拡大は困難



(Cerro Verde 鉱山)

1)資源 ②自社探鉱の進展 Stone Boy

ストーンボーイ・プロジェクト

権益保有比率

SMM95% 住友商事5% Au Sb 等

対象鉱物

現在の状況

1991年から探査開始

(ポゴ鉱山はこのプロジェクトにより発見された)

モンテクリスト地域 ナオシ地区

2008年－2010年 **ボーリング調査を実施**

29孔中 27孔で金・銀・アンチモンの有望な
鉱化帯の存在を確認

2011年 **12孔の探鉱を実施**

今後ナオシ鉱体の選鉱試験を実施中



**正確な鉱量を把握するべく さらに調査を継続
ナオシ地区以外の鉱化帯についても調査を進める予定**

1)資源 ②自社探鉱の進展 ソロモンプロジェクト

ソロモンプロジェクト

対象

ニッケル酸化鉱石

鉱区

チョイスル島:1鉱区 約200km²

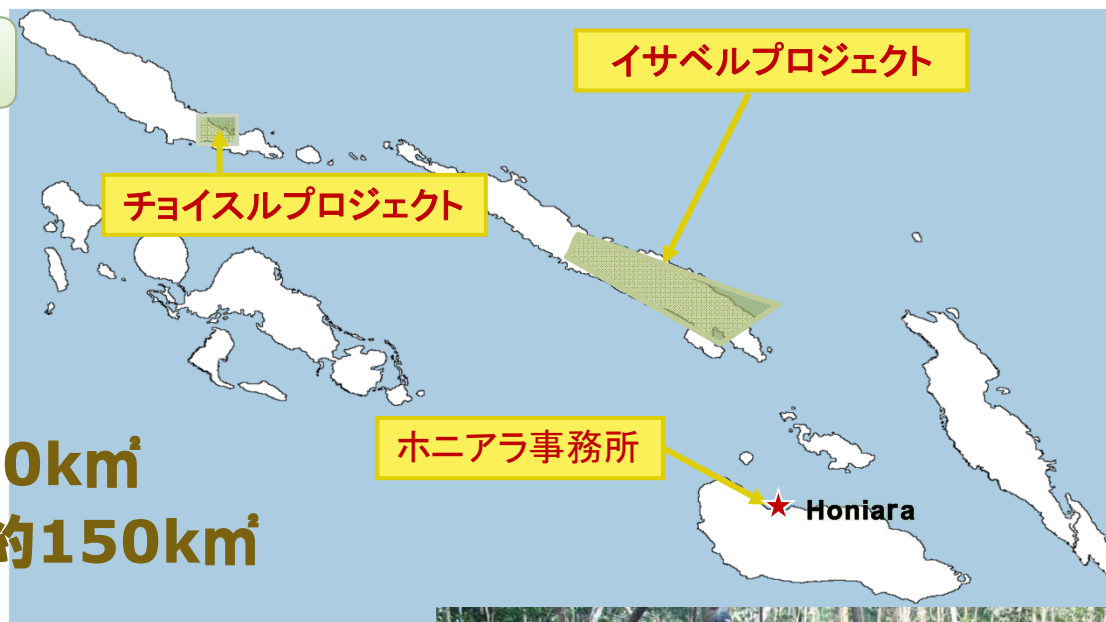
サントイサベル島:3鉱区 約150km²

F/S

Pre-FS・EIS(環境影響評価)作業
は完了

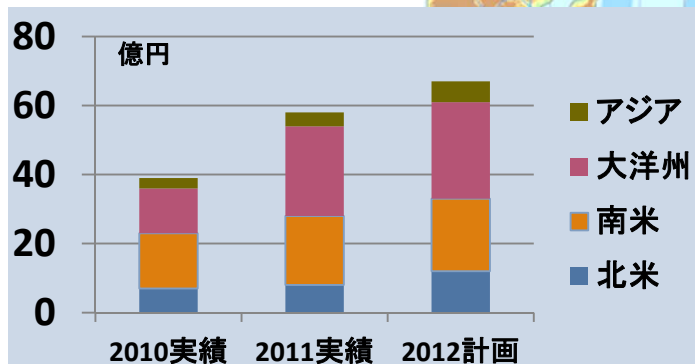
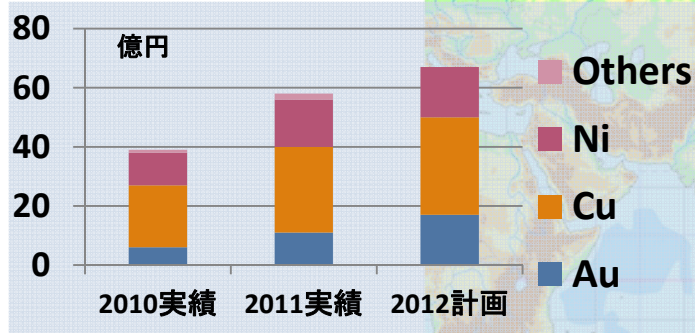
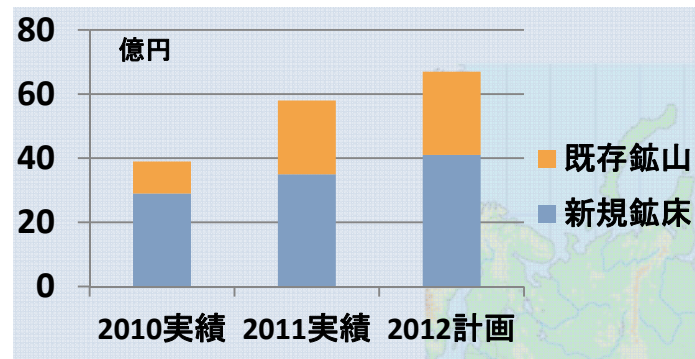


探鉱作業と並行して採掘への
ステップアップに向け許認可を申請中
4/1ソロモンプロジェクト推進室設置 活動更に本格化

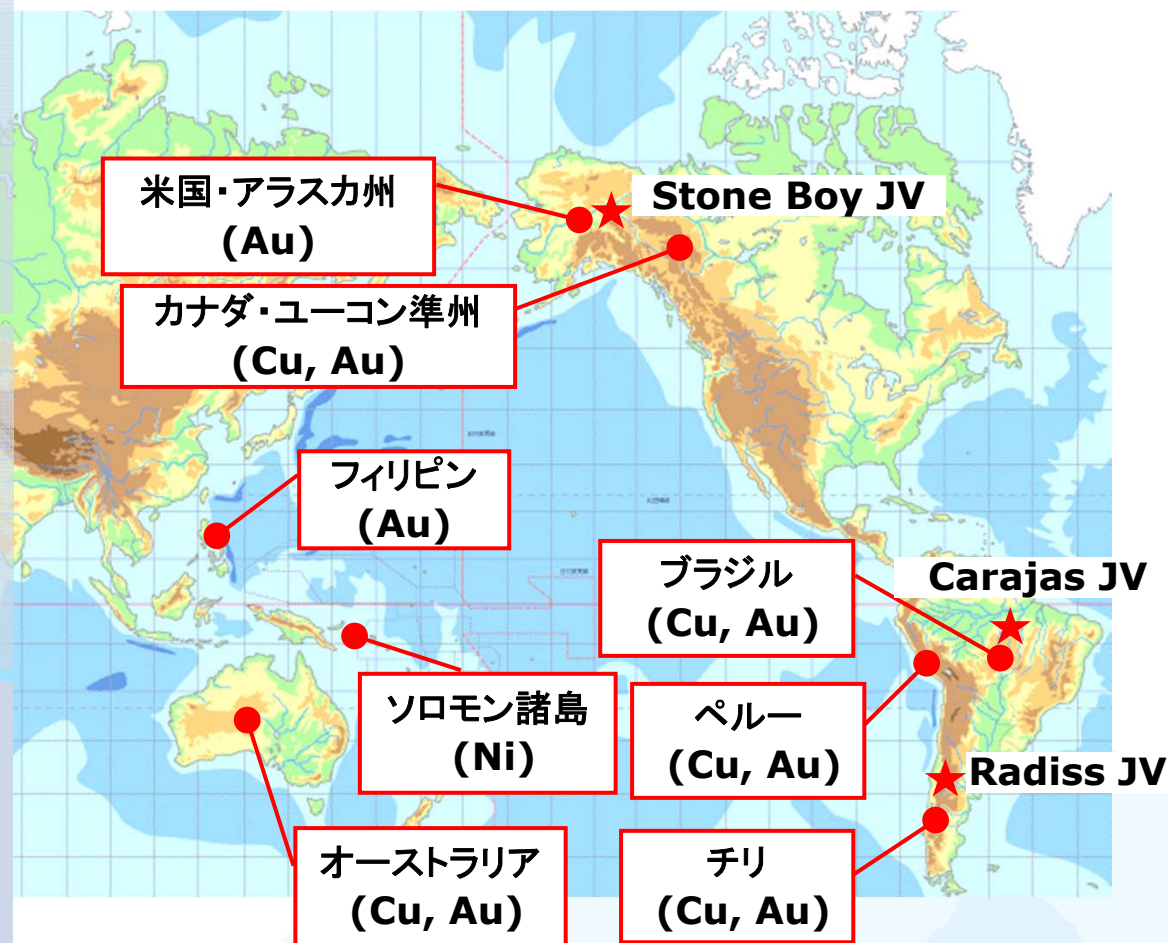


1)資源 ②自社探鉱の進展 世界での探鉱推進

探鉱費推移



約20件の探鉱PJが進捗中



1)資源 ③開発案件への参入 SierraGorda

SierraGorda(シエラ・ゴルダ)銅鉱山開発プロジェクト 2011年 5月15日 参入調印

ロケーション

チリ・第Ⅱ州

Antofagasta市から北東140km

標高 約1,700m



権益比率

KGHMInternational* 55%

SMM 31.5%

住友商事 13.5%

日本側で銅精鉱50%の引取権

可採鉱量

約13億トン マインライフ20年

SMM引取権 銅量11万トン/年

	Cu	Mo	Au
含有金属量	5,000kt	300kt	80t
品位	0.4%	0.025%	0.06g/t

操業開始

2014年を予定

*Quadra FNX社は2012年3月 ポーランド非鉄大手KGHM社に買収され、KGHM International社となった。

Sierra Gorda

Antofagasta

Santiago

1)資源 ③開発案件への参入 SierraGorda

Sierra Gorda Project

開発スケジュール

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
必要許認可取得	→						
建設		→	→	→			
110kt操業				→	→	→	
190kt拡張起業					→	→	
190kt操業							→

＊2011年6月に環境許可取得 7月より建設工事開始

＊2011年8月 SMMから人員を派遣(4名)

＊建設作業進捗－居住施設・事務所・付帯施設
等の工事を実施中

＊2012年3月より Pre-stripping(剥土作業)を開始

＊開発資金(総額約30 億ドル) 関係金融機関との間で総額10 億ドルの融資契約締結



1)資源 ③開発案件への参入 検討中の開発案件

国	対象金属
カナダ	Cu, Au
アメリカ	Cu
チリ	Cu
ペルー	Cu
アルゼンチン	Cu
インドネシア	Au, Ag

- ＊新規案件の抽出作業を強化・推進
- ＊海外パートナー・外部機関との連携
- ＊参入競争の激化を踏まえFS前の案件も積極的に評価

1)資源 ④既存鉱山増産 Morenci

Morenci鉱山(北米) 拡張プロジェクト

増強計画

	現状
採掘量	635kt/日
選鉱能力	50kt/日
生産銅量	280kt/年



2014
816kt/日
115kt/日
380kt/年



スケジュール

- * 2012年1QにFS完成
 - * 2012年中に初期の建設作業開始予定
 - * 2014年工事完成 フル稼働の予定
- 起業費 ~\$1.6B

権益比率

FCX	85%
SMM	12%
住友商事	3%

1)資源 ④既存鉱山増産 CerroVerde

Cerro Verde鉱山(ペルー) 拡張プロジェクト

増強計画

	現状		2016
採掘量	320kt/日	➔	850kt/日
選鉱能力	120kt/日		360kt/日
生産銅量	300kt/年		500kt/年

スケジュール

- * 2011年4Q 環境影響アセスメント手続き開始
- * 2012年末までに許認可手続きを完了
- * 2013年工事開始 2015年末フル生産体制
30年間の操業を目指す
- * 起業費 \$4B

権益比率

FCX	53.56%
SMM	16.80%
住友商事	4.20%
その他	25.44%



1)資源 ④既存鉱山の拡張 Northparkes

Northparkes鉱山 (豪州)拡張プロジェクト

増強計画

	現状	2016
選鉱能力	5.8Mt/年	30Mt/年を検討
生産銅量	38kt/年	150kt/年を検討

経緯

*STEP CHANGE PROJECT

2010年8月

- 拡張の可能性を探るべく、
Pre-FS段階への移行を発表
- 既存3鉱体の下部及び新規1鉱体の開発
により、生産規模の拡大を計画

スケジュール

- Pre-FS 2012年4Q FS 2013年3Q 完了予定
- 2016年からのフル生産を目指す



権益比率

Rio Tinto	80.0%
SMM	13.3%
住友商事	6.7%

1)資源 ⑤Au 2鉱山資源量のキープ

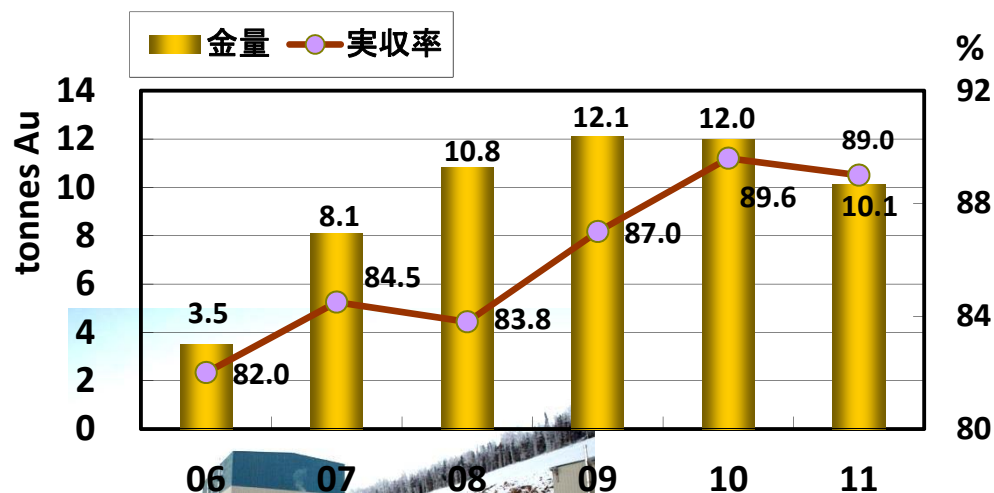
ポゴ鉱山

2011年 生産量実績:10.1t

→低品位鉱石の採掘により生産Au量減
埋蔵量(2011.12月末) 155t

2011年獲得Au量 44.6t

さらなる鉱量獲得に向け探鉱を実施



菱刈鉱山

2011年度 販売量実績 7.5t
埋蔵量(2011.12月末) 150t

2011年獲得Au量 9.6t

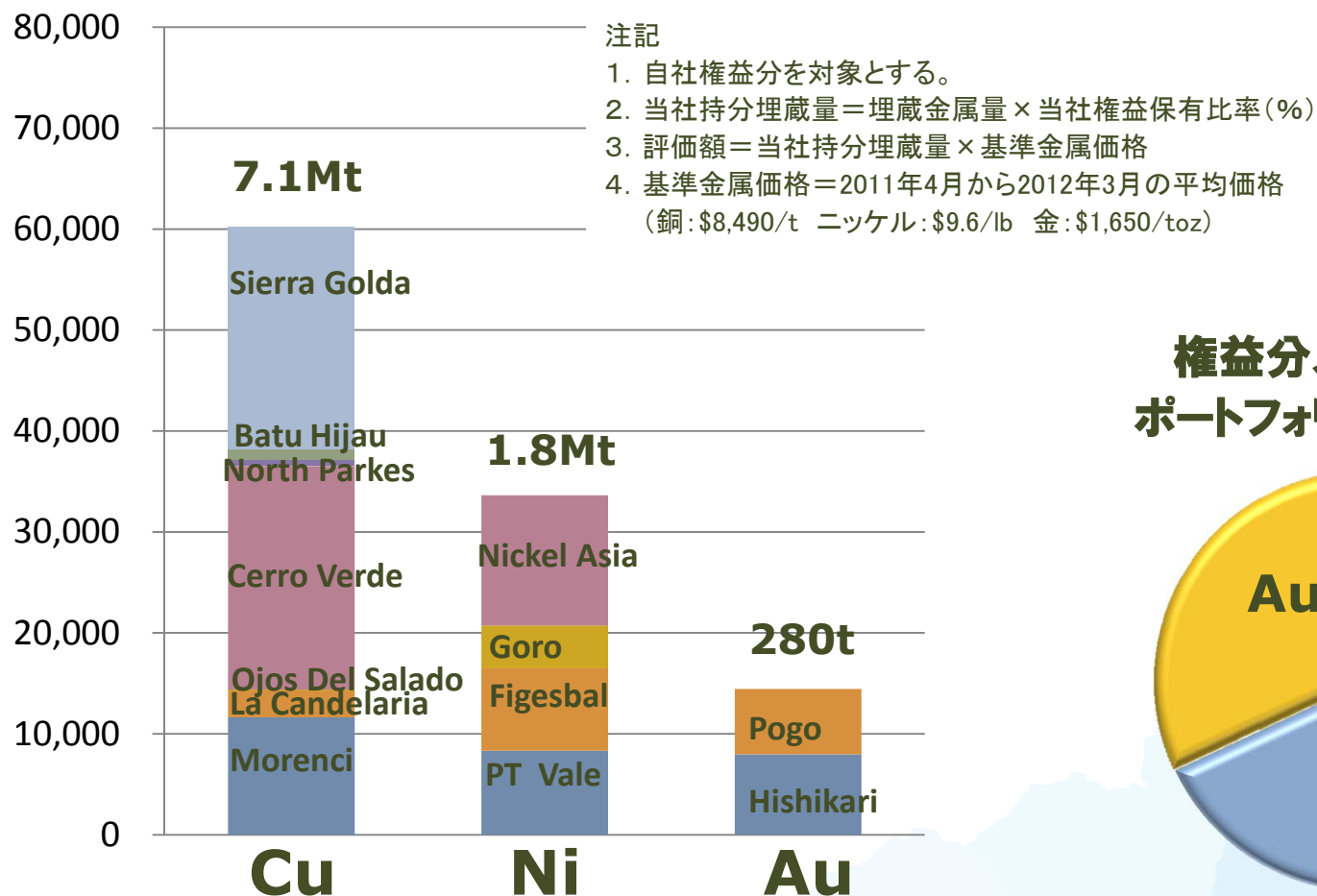
「掘った分を見つける」方針を継続
引き続き埋蔵量をキープ

1)資源 ⑥権益保有鉱山の埋蔵量

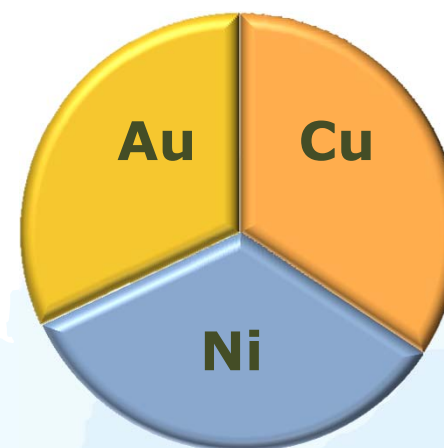
総計110B\$

(推定埋蔵量換算)

評価額(百万ドル)

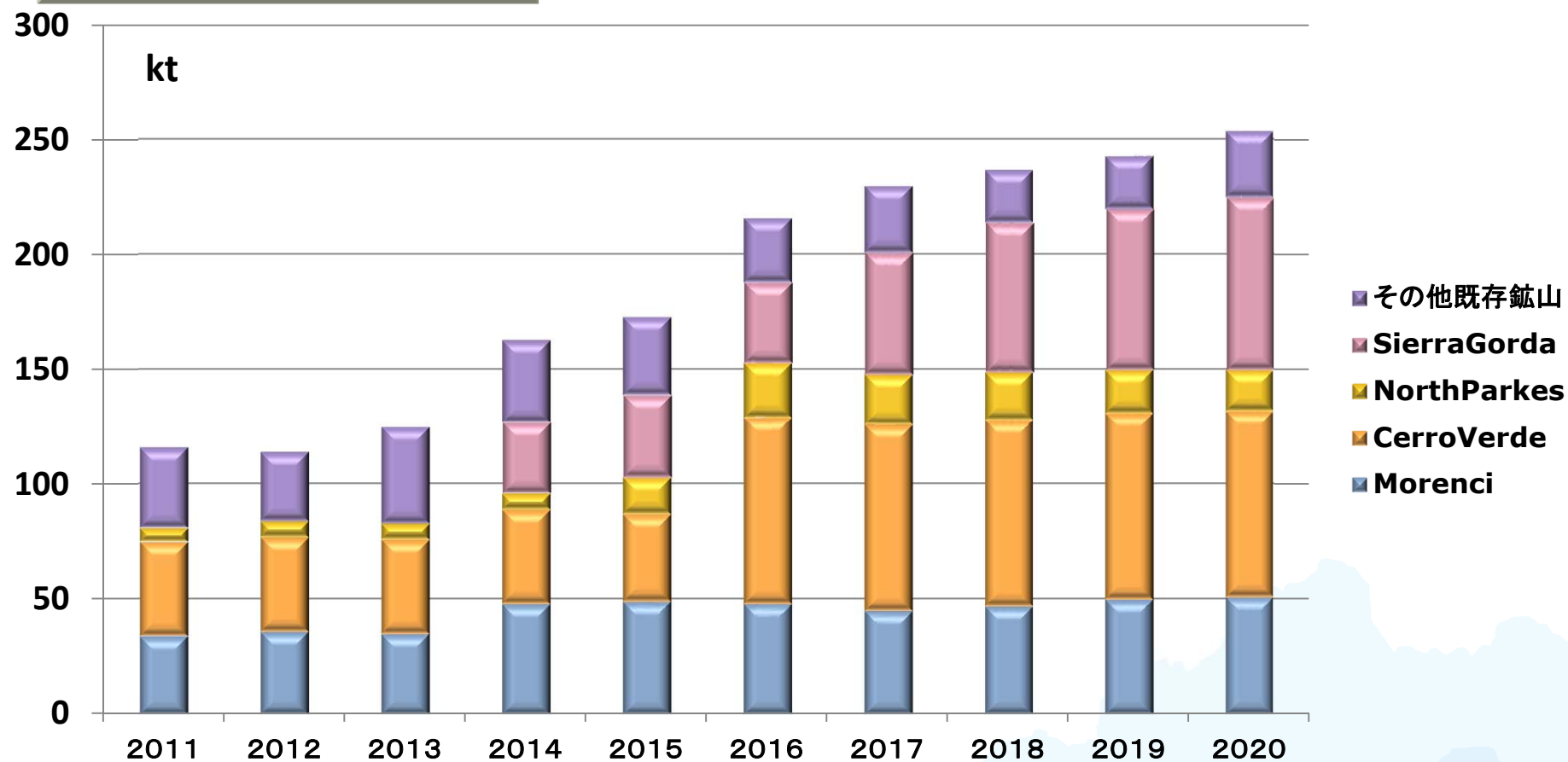


権益分メタル別生産額
ポートフォリオ(2011年度)



1)資源 ⑦Cu権益拡大

権益ベース生産量



長期ビジョン・権益30万トンへの道筋が見えつつある

2)製錬 ①タガニートプロジェクトの進捗

CBNCの実績に基づく

2拠点目の世界最新鋭HPAL工場の建設

- ◆生産能力: Ni30Kt/年・Co2.6Kt/年 ◆投資額: 1.3BUS\$
- ◆出資比率: SMM 62.5% NAC社 22.5% 三井物産 15%
- ◆操業予定期間: 30年間

2011年12月より工事再開 足元の進捗は約40%

スケジュール

- 2010年 3月 建設工事開始
- 2011年 10月 襲撃事件の発生
- 12月 安全施策の実施に目途 工事の再開
- 2012年 建設工事の本格化 操業開始に向けた体制の整備
セキュリティ体制の強化策推進
- 2013年 建設工事完了 商業生産開始



2)製錬 ②電気ニッケル 65kt起業推進

電気Ni生産能力増強

◆能力: 41kt/年→65kt/年

◆投資額: 140億円

◆スケジュール

2013年第一四半期完工予定

設備増強

プロセス開発／改善

Taganitoとの連動

Taganito HPAL稼働に先行して立上げを完了



進捗状況

*新CM工程設備設置工事完了

*電解建屋増設工事中



Ni100kt/年体制に向け順調に進捗

2)製錬 ③東予工場 銅製錬操業計画

東予工場官休期間での自熔炉全煉瓦更新

ほぼスケジュール通り完了 高負荷操業への対応力向上

進化型精鉱バーナーの開発・改善推進

高酸素効率・銅ロス低減・ダスト発生率低減による生産性向上

更なるコスト削減への取り組み推進

生産性の向上 償却費・労務費・修繕費等の費用削減

作業環境の改善

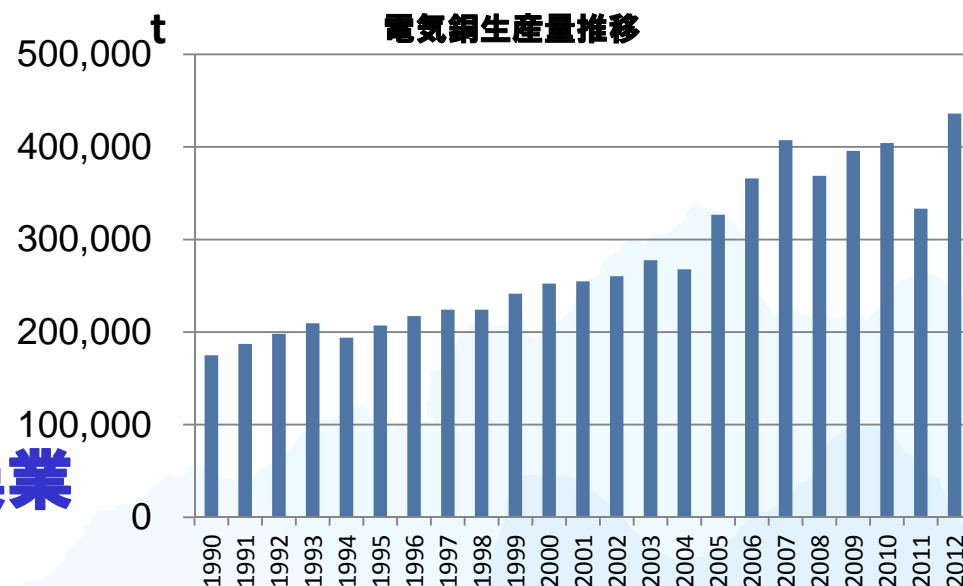
競争力の更なる強化

2012年度生産計画

電気銅 436kt/年

新自熔炉での高負荷安定操業

リサイクル原料増処理



2)製錬 ④Goroプロジェクトの状況

2011年 6月 当社から役員クラス1名
プロセスエンジニア 2名
設備エンジニア1名

派遣

- 溶媒抽出設備の抜本解決へ支援
- トラブル設備の改善を実施

11月～2012年3月上旬

全工程連続の操業試験実施

HPAL→SX(溶媒抽出)→FBR(流動焙焼)

→最終製品(酸化Ni)生産体制構築へ

2011年 水酸化ニッケル 出荷量 約7,000t

2012年 酸化ニッケルの本格生産開始予定(約20kt)

2)製錬 ⑤精錬研究開発体制構築

精錬開発センターの設置

目的

精錬分野で世界トップレベルのプロセス・設備技術を継続的かつ迅速に開発
開発業務を通じて人材を育成
精錬プロセス・設備 その他の関連技術の伝承・発展を図る

コンセプト

研究所・工場・工務部門の技術者を招集・専任化
プロジェクトに応じて装置を組合せ 効率的に試験を実施
開発を通じて技術者のレベルアップを図る
経験・知識の豊富な“マイスター”を置き技術・知識を伝承

スケジュール

2012年度より建屋・基本設備の設計・設置準備開始
2013年に「精錬開発センター」として活動スタート

3)材料事業 ①選択と集中の加速

事業構造の転換に向けた諸施策の実施

- ・ボンディングワイヤー事業撤退
- ・サブトラクティブCOF 生産・販売打切り
セミアディティブCOFに特化
- ・タイ・リードフレーム生産撤退
- ・リードフレーム事業のアライアンス推進

◆ 環境・エネルギー分野向け材料に経営資源を集中

◆ 材料事業部門の再編成を実施

3)材料 ②リードフレーム事業統合

リードフレーム事業について
日立電線(株)と事業統合に向けた検討を開始

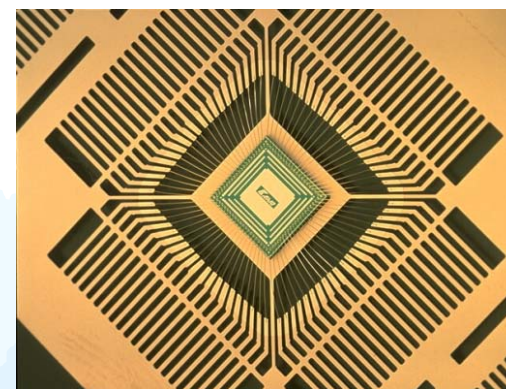
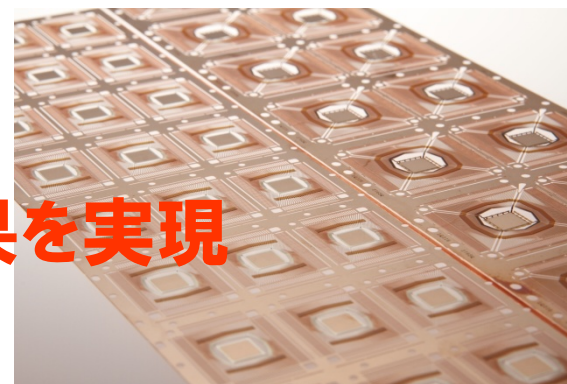
両社の経営資源を結集し
それぞれの強みを活かした相乗効果を実現

2012年上期中に正式契約締結予定

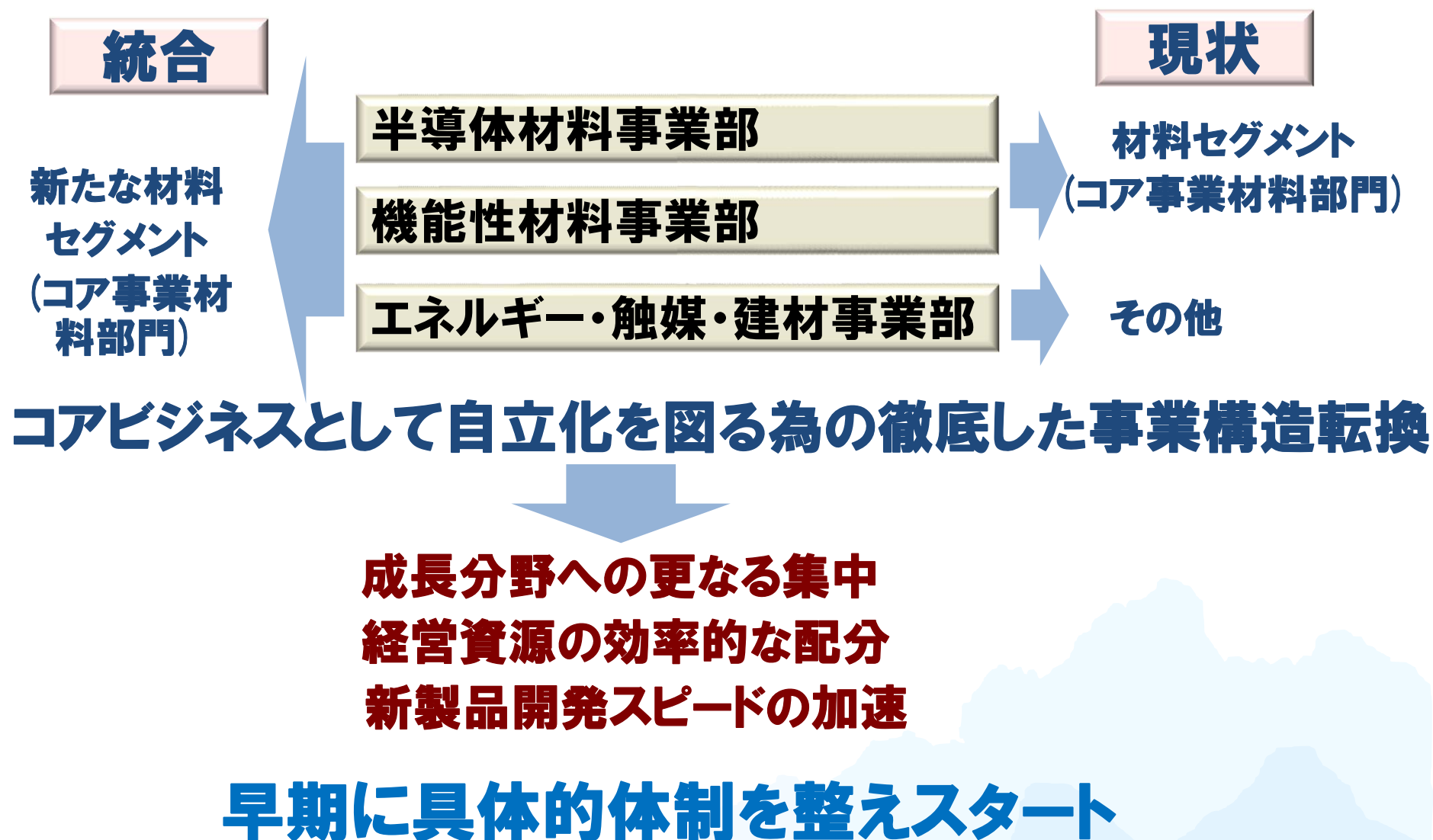
＊水平統合 → 製造と販売の効率化

＊垂直統合 → 材料調達の優位性

→ 今後の協議により、具体的な統合の内容を適宜開示する予定



3)材料 ③材料事業の統合



3)材料事業 ④成長戦略 電池材料

基本戦略

①TOYOTA車(プリウス等)向け正極材料First Vendor維持

②既存サプライチェーンへの参入



硫酸ニッケル
増強

現状能力
25,000t/年

2014年2月
45,000t/年

プリカーサー
増強

現状能力
700t/月

2012年9月
1,500t/月



SUMITOMO

3)材料事業 ④成長戦略 電池材料

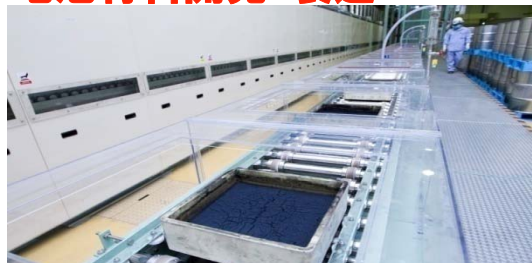
基本戦略

③資源～正極材料～リサイクルの新たなビジネスモデル確立

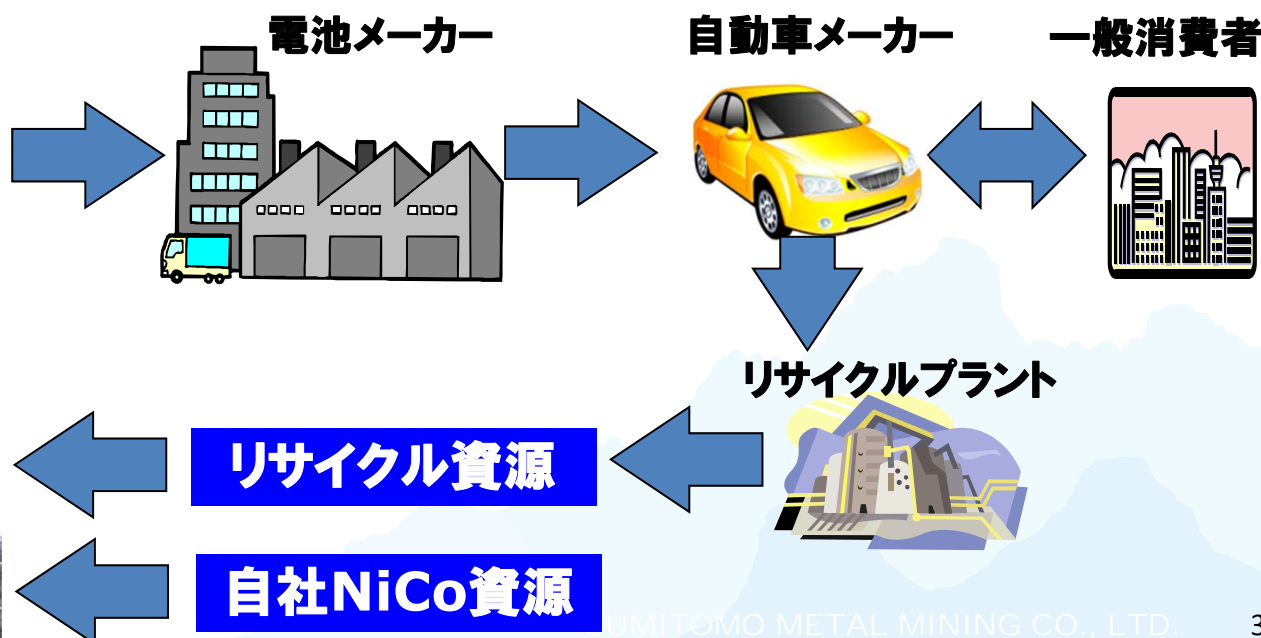
使用済みニッケル水素電池に含まれる全てのNi・Coを
回収できるプロセスを開発

処理能力 一般的なHEVに換算して年間約5万台分

電池材料開発・製造



ニッケル化成品製造



3)材料事業 ⑤成長戦略 サファイア基板

**照明用LED需要拡大に伴い
大型基板の強い引き合い**

◆大型結晶量産技術を確立

1インゴットからの6in ϕ 2本抜きに
よるコストダウン

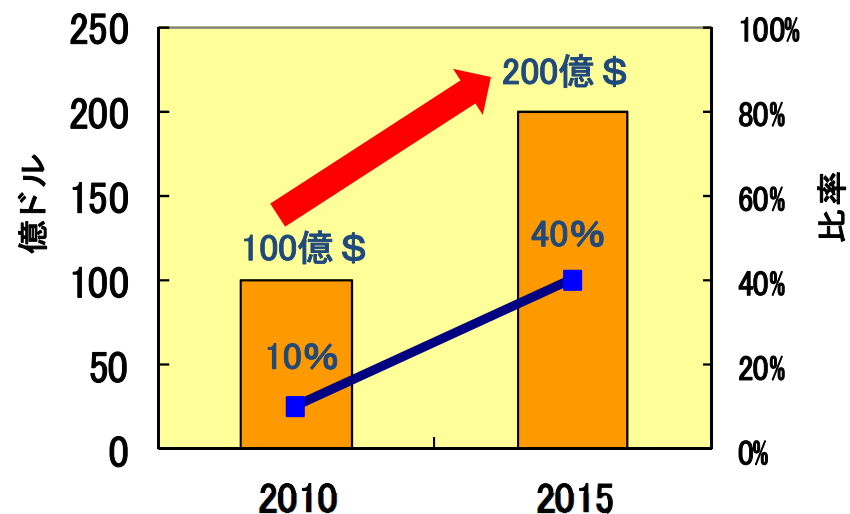
大口電子で量産化起業実行中

◆6in ϕ 基板増産計画

＊設備投資額：12億円(既投資分含む)

＊完工：2012年 10月予定

LED市場の伸びと6in ϕ 基板の比率



3)材料事業 ⑥販売統括(中国)

SMM中国販社の設立

住友金属鉱山管理(上海)有限公司

業務開始 2012年7月

場所:上海地区

事業内容:材料製品・地金販売等の商社機能

SMMグループ中国関係会社の管理業務サポート

中国ビジネス知識の蓄積 SMMへの情報提供

トレーニー制による人材育成

目標

- ◆新興市場での拡販
- ◆自ら情報収集・分析し中国市場での活動戦略を打ち出す
- ◆他の新興市場進出のモデルとなる



4)進行中プロジェクトの戦力化

資源・製錬を中心とした各プロジェクト
2012年度から収益に貢献

	プロジェクト	09中計	12中計				15中計	
		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
資源	SierraGordaプロジェクト			第1ステージ			第2ステージ	
	CerroVerde拡張					○		
	Morenci拡張			○				
	NorthParkes拡張					○		
製錬	タガニート		○					
	ENi65kt		○					
	GoroProject	○						
Cu権益分生産量概数(Cu-kt/年)		120	130	160	170	220	230	240
Ni生産能力(Ni-kt/年)		70	100	100	100	100	100	150?

5)企業価値向上委員会

- ◆長期的な視点による大型プロジェクトの仕込みと育成
- ◆新規大型プロジェクト案件候補から「種まき」案件を選定
- ◆案件毎の「植付け」から「刈取り」まで継続的に進捗確認

資源・製錬事業 投資額200億円以上 期待利益50億円/年以上

材料事業 投資額50億円以上 期待利益10億円/年以上

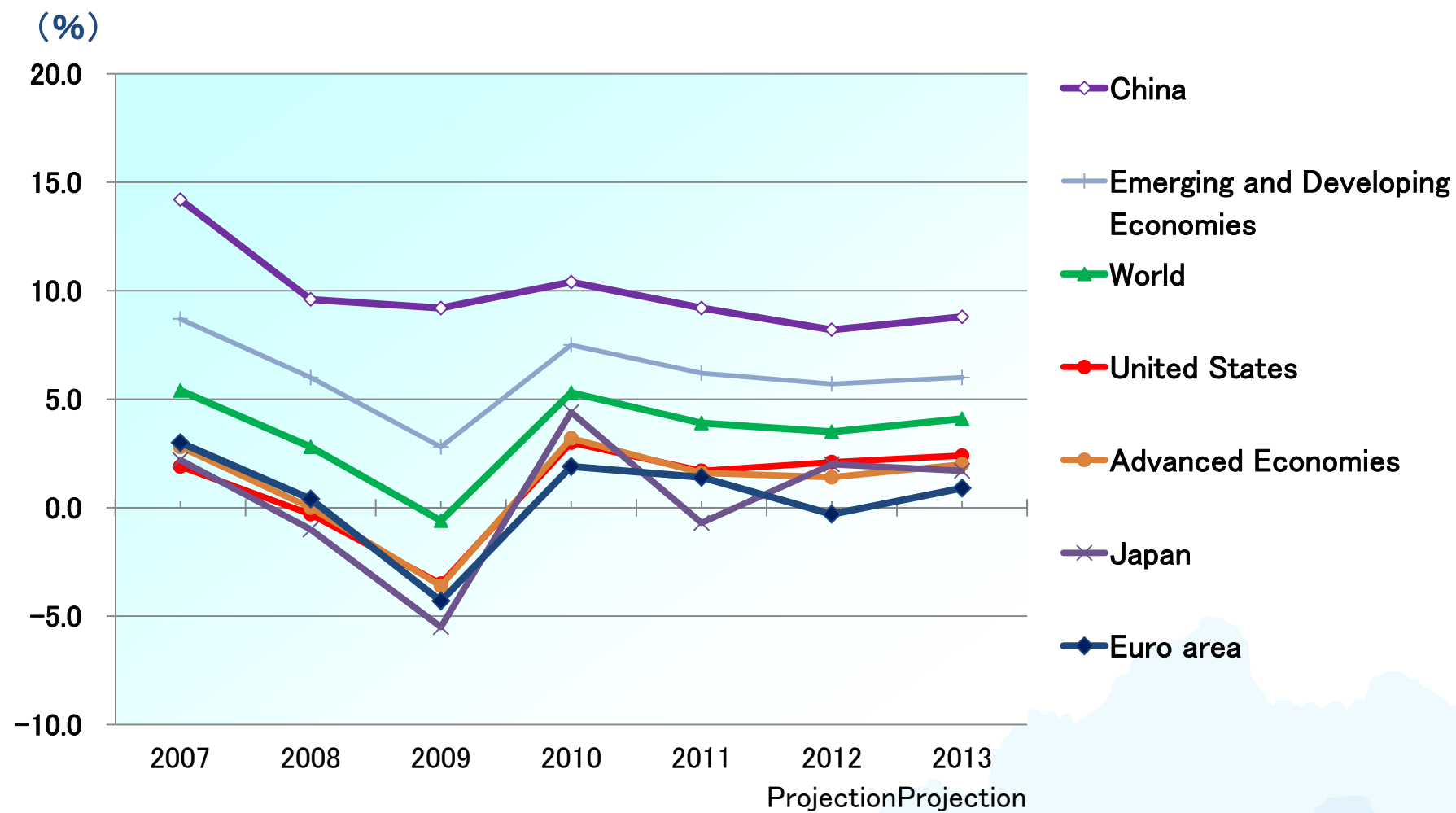


III. 外部環境



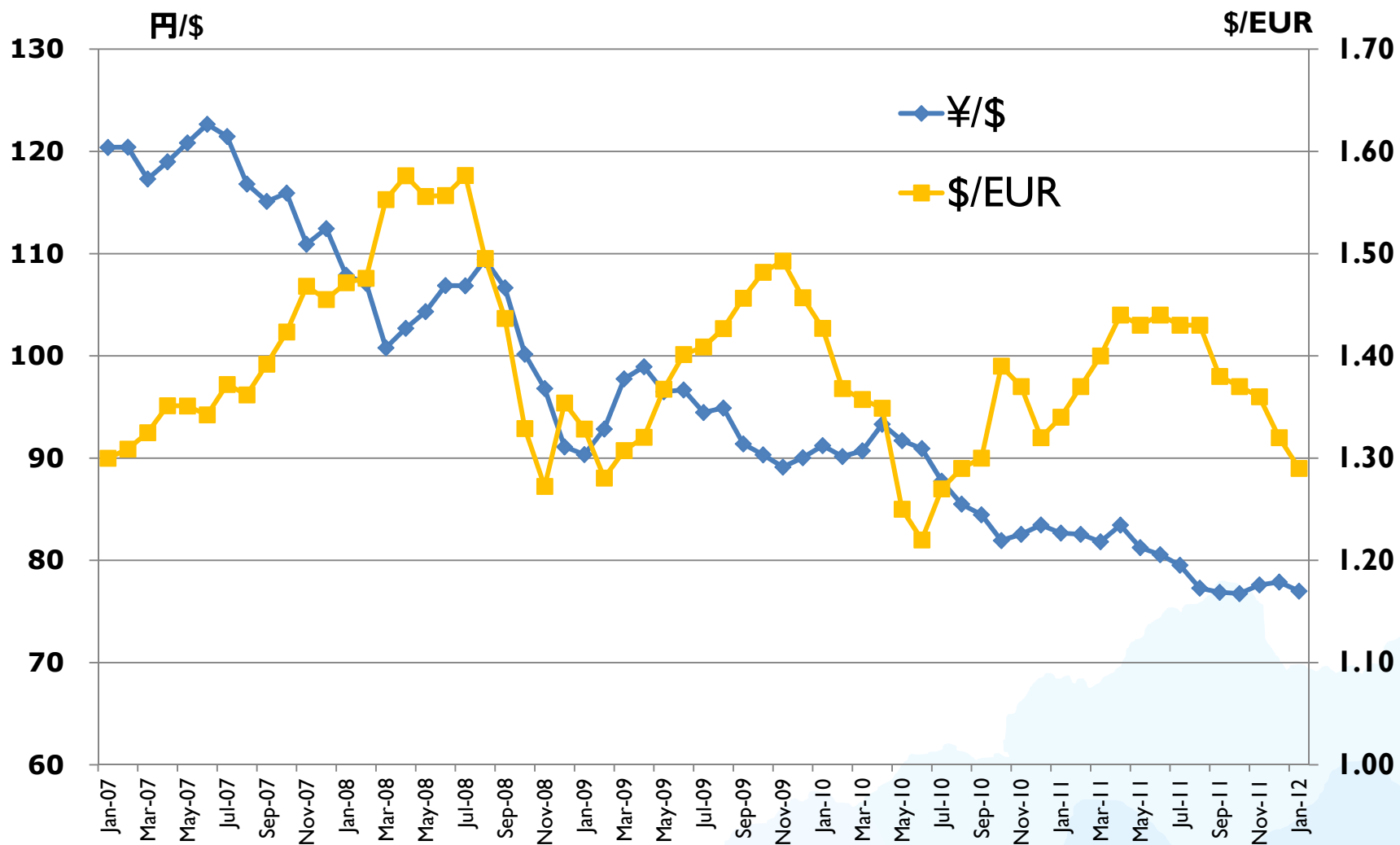
シエラゴルダ キャンプ居住施設

1)GDP予測

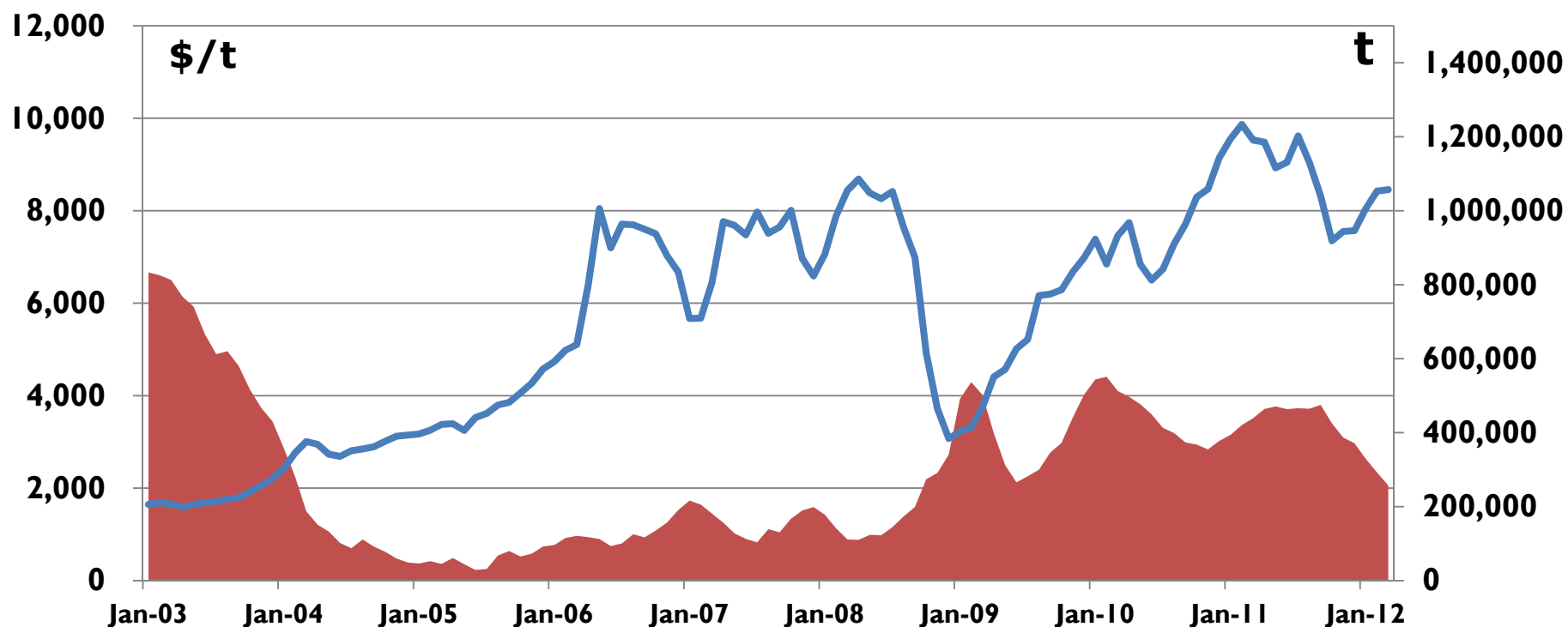


(出展:IMF2012/4月版)

2)為替レート推移



3)Cu相場推移・需給バランス予測

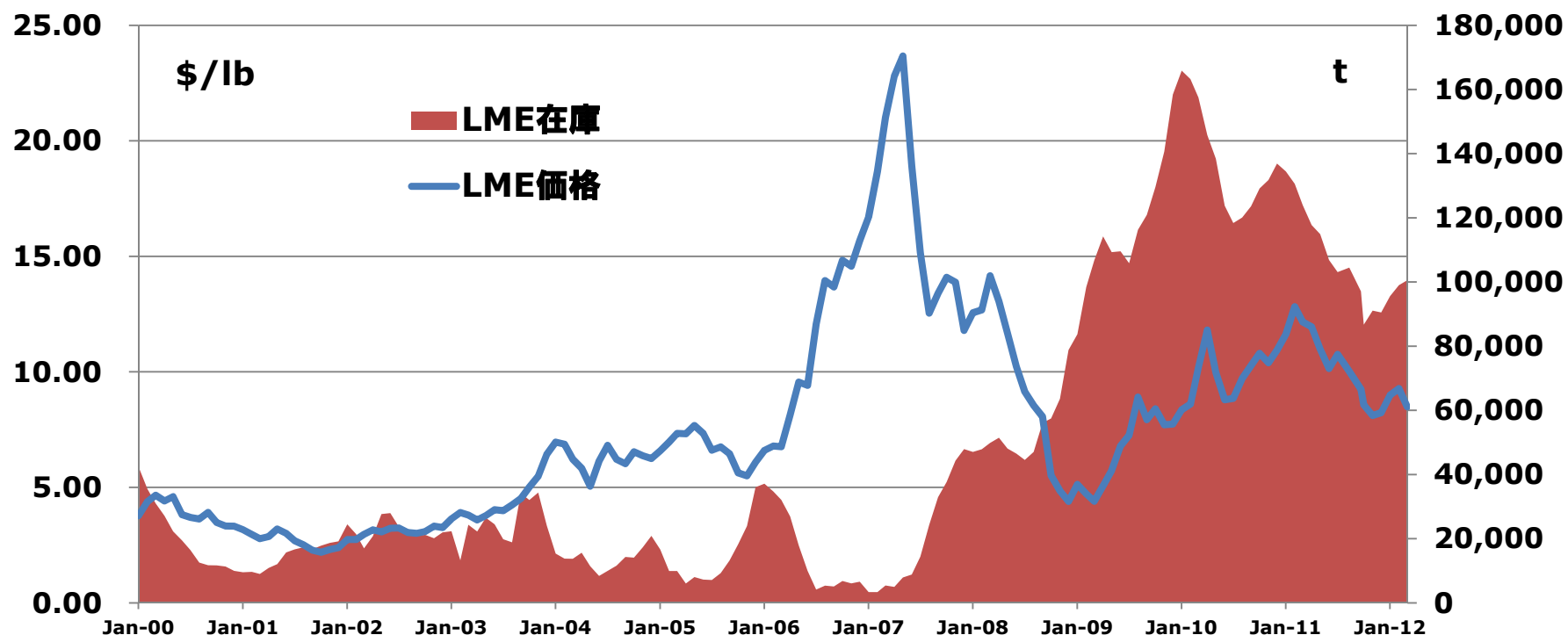


[ICSG予測2012/4]

	2011	2012	2013
Production	19,650	20,149	21,549
Usage	19,885	20,386	21,188
Balance	▲235	▲237	361

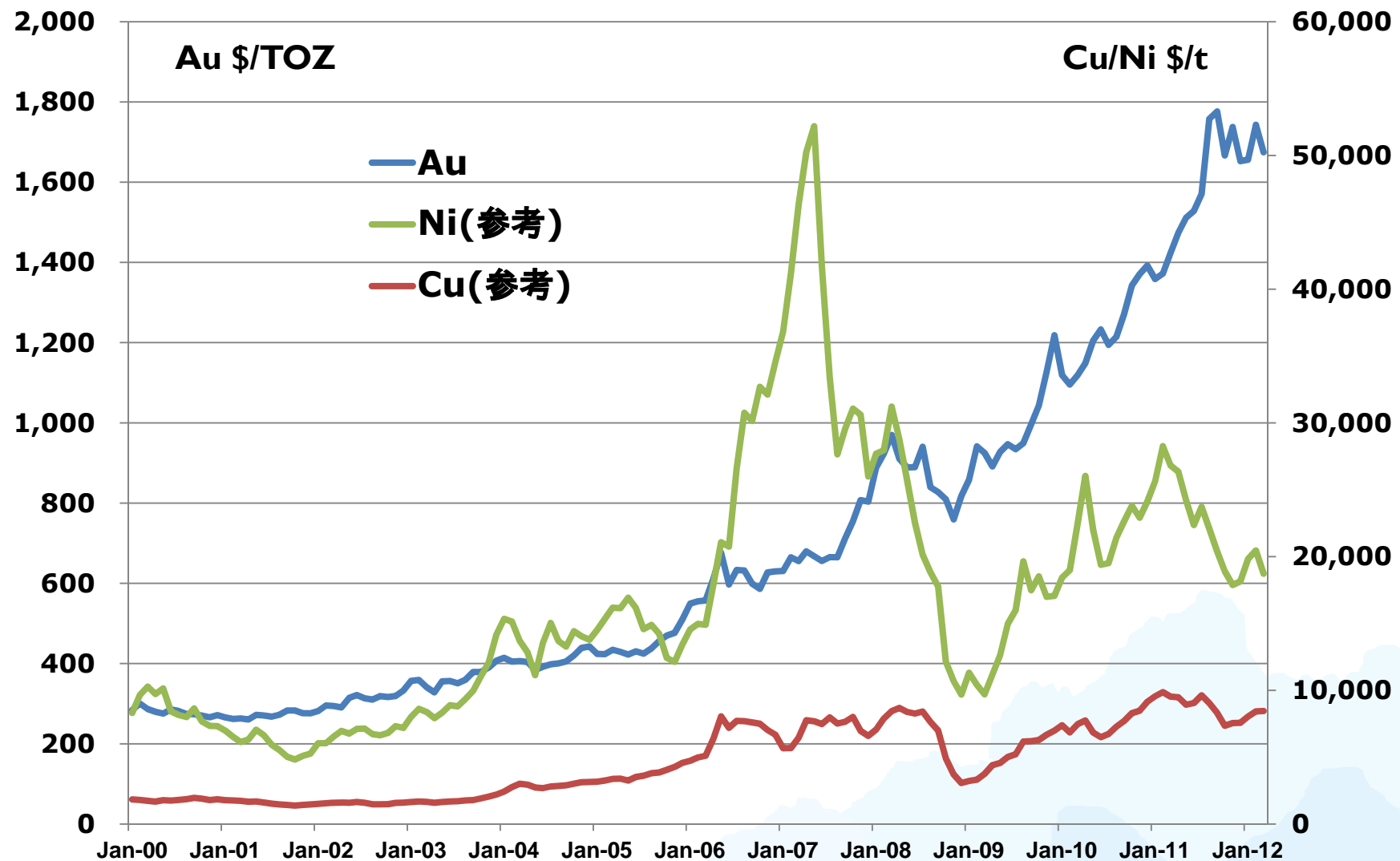
(kt)

4)Ni相場推移・需給バランス予測



	INSG予測2012/4(kt)			当社予測2012/4(kt)		
	2010	2011	2012	2010	2011	2012
Production	1,440	1,600	1,694	1,425	1,605	1,725
Usage	1,480	1,573	1,640	1,488	1,582	1,670
Balance	▲40	27	54	▲63	23	55

5)Au相場推移



IV. 資料編 業績ハイライト・感度分析



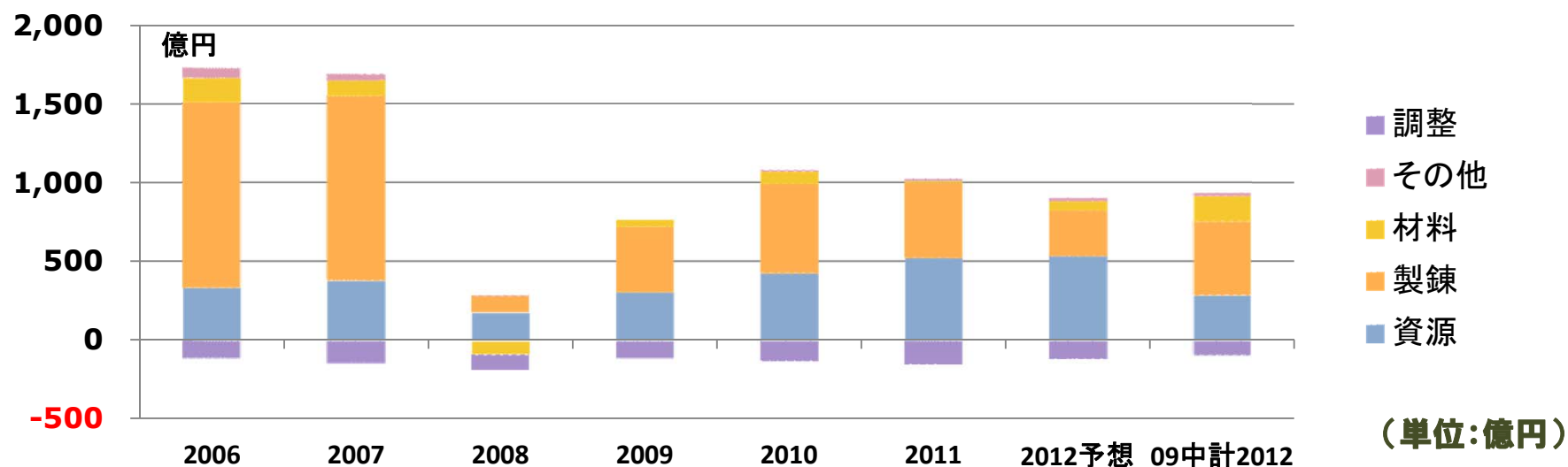
シエラゴルダ キャンプ食堂

1)連結業績推移

(単位:億円)

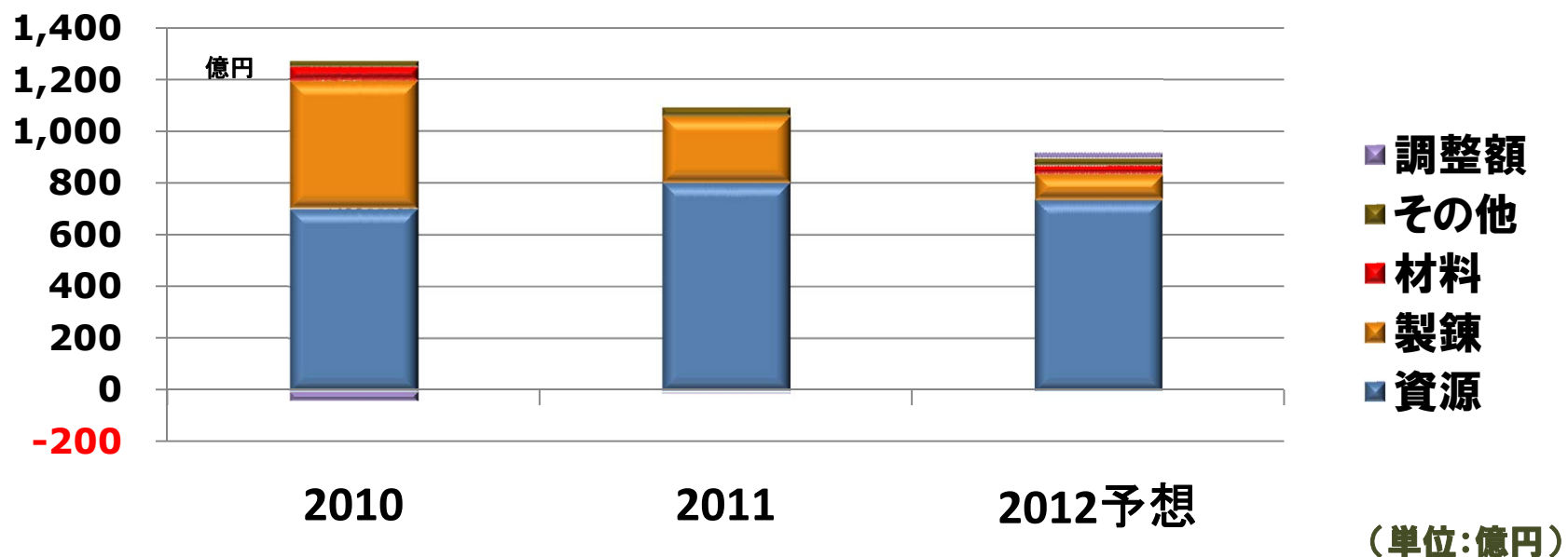
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 予想	09中計 12試算
売上高(億円)	9,668	11,324	7,938	7,258	8,641	8,479	8,140	7,800
営業利益(億円)	1,626	1,554	105	663	960	885	800	850
経常利益(億円)	2,053	2,179	326	878	1,237	1,088	920	1,100
内 持分法利益(億円)	467	740	315	261	348	232	160	300
当期純利益(億円)	1,261	1,378	220	540	840	652	680	700
ROA (%)	14.8	13.6	2.2	5.8	8.3	5.9	N/A	6
ROE (%)	29.0	25.4	4.0	9.9	13.8	10.1	N/A	10
1株あたり配当金 (円)	27.0	30.0	13.0	20.0	32.0	28.0	28.0	N/A
銅 (\$/T)	6,970	7,584	5,864	6,101	8,140	8,485	8,500	6,000
ニッケル (\$/lb)	14.0	15.5	7.5	7.7	10.7	9.6	8.0	8.0
金 (\$/Toz)	629	766	867	1,023	1,294	1,646	1,650	1,000
亜鉛 (\$/T)	3,579	2,986	1,560	1,934	2,187	2,101	2,000	2,000
為替 (¥/\$)	117.0	114.4	100.7	92.9	85.7	79.1	80.0	90.0

2)セグメント別営業利益



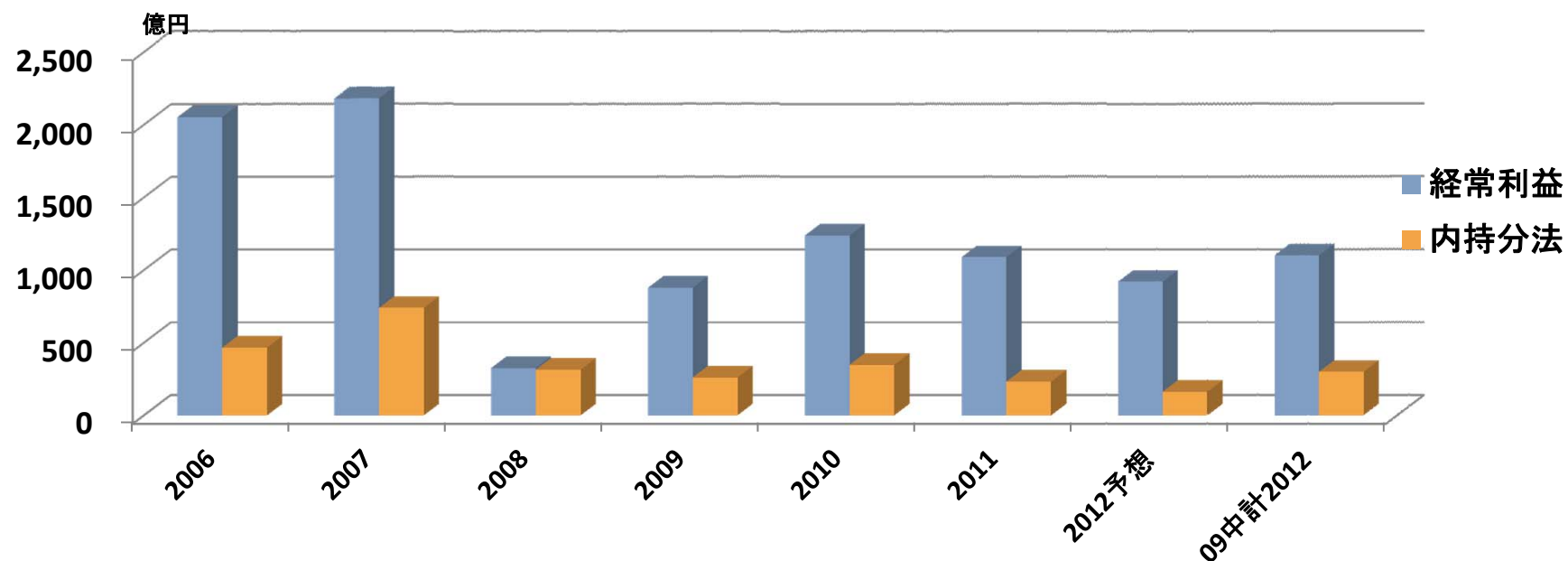
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 予想	09中計 2012
資源	337	383	179	309	430	527	540	290
製錬	1,181	1,174	107	417	569	480	290	470
材料	152	98	▲87	45	78	10	60	150
その他	63	37	6	▲1	10	14	20	20
調整	▲107	▲138	▲100	▲107	▲127	▲146	▲110	▲80
計	1,626	1,554	105	663	960	885	800	850

3)セグメント別貢献利益



		2010	2011	2012予想
貢献利益	資源	704	805	740
	製錬	495	257	100
	材料	54	▲3	30
	その他	23	34	30
調整額		▲39	▲5	20
経常利益		1,237	1,088	920

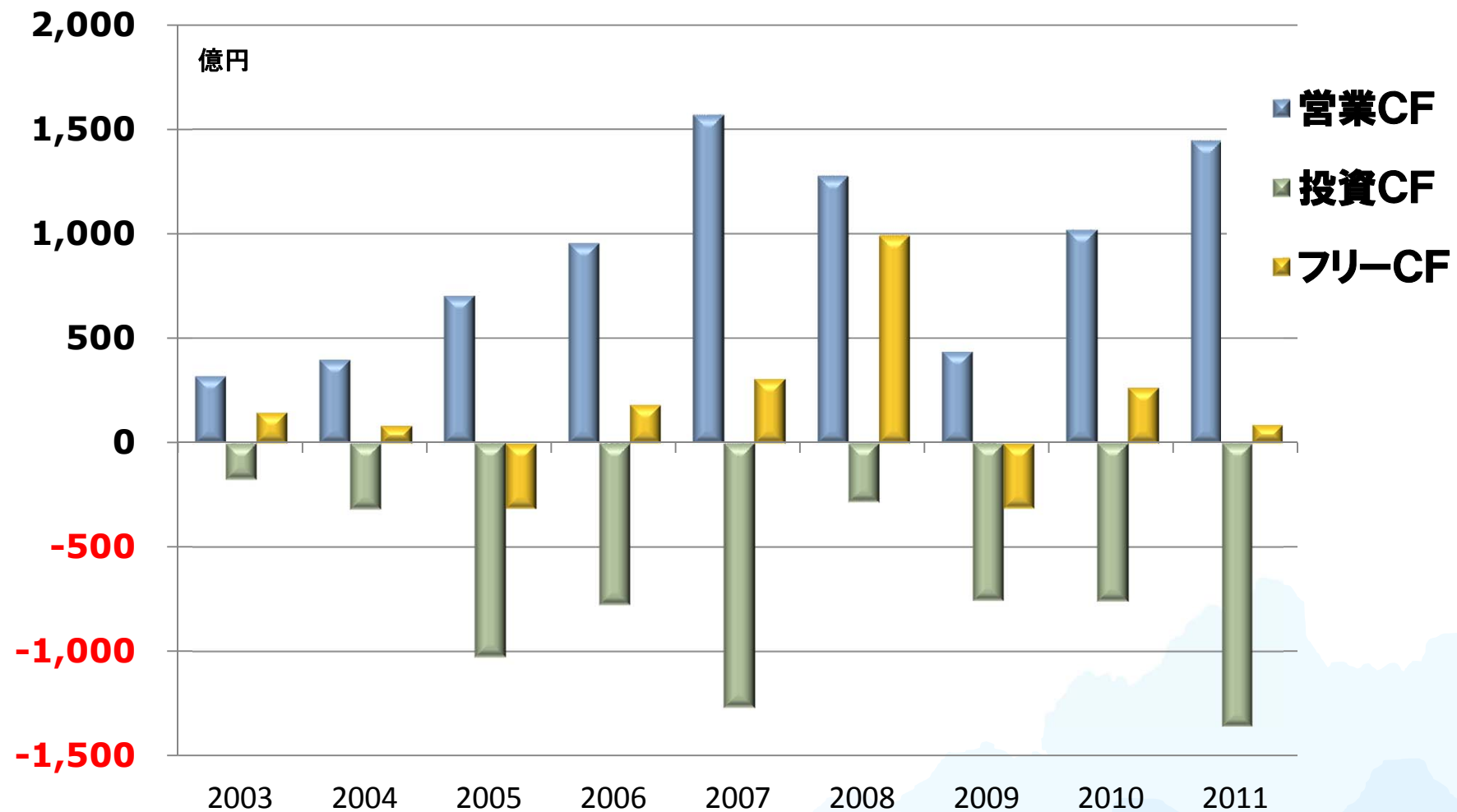
4)連結經常利益・持分法投資利益



(単位:億円)

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012 予想	09中計 2012
連結經常利益	2,053	2,179	326	878	1,237	1,088	920	1,100
内持分法	467	740	315	261	348	232	160	300

5) キャッシュフロー



6)感度分析

(億円/年)

要素	変動幅	12年度予想
Cu	±100\$/t	5/10
Ni	±10¢/lb	8/9
Au	±10\$/TOZ	4/4
円/\$	±1円/\$	11/11

(注)

1) 営業利益／経常利益 に対する影響額

2) 円/\$は金属加工収益相当の為替差のみ。
海外関係会社の連結時の業績に対する為替差を含まず。

7)用語集

資源・製錬

1)金属取引

(LME)

London Metal Exchange(ロンドン金属取引所)。銅、ニッケル、アルミ、鉛、亜鉛など非鉄金属専門の取引所。LMEで決定された金属取引価格は、金属地金の販売価格や原料購入価格の国際的指標として使われる。

(TC/RC)

TC:Treatment Charge (熔錬費)

RC:Refining Charge (精錬費)

金属原料(銅精鉱、ニッケル鉱などの)購入条件の一部として使われる費用。たとえば銅精鉱の購入価格は「一定時点のLME価格—その取引に用いられるTC/RC」(プラス諸条件)という条件が用いられる。

(London Fixing)

金はLMEに上場されておらず、価格は市場参加者の相対取引で決定されている。このため毎日午前/午後の2回、ロンドン貴金属市場協会のメンバーである金融機関が発表するLondon Fixing 価格が一日の基準となる価格として取引の指標となっている。

(重量ポンド(lb))

ヤード・ポンド法の重量単位。銅・ニッケルの計量基準や価格基準として使われるほか、TC/RCの算出基準として用いられる。1ポンドは453.59グラム、1トンは2204.62ポンド。

(トロイオンス(troy ounce))

金・銀など貴金属の重量単位で、1トロイオンスは約31.1グラム。なお「トロイ」はフランス中部・シャンパーニュ地方の都市で、中世ヨーロッパの中心的な市場であった。ここで金・銀と商品を交換する単位として使われたトロイオンスという単位が現在も金の取引単位として使われている。

2)金属製錬

(製錬)

鉱石その他の原料から有用金属を抽出することをいい、主に乾式製錬・湿式製錬に分けられる。当社では東予工場(愛媛県西条市)の上工程(溶錬工程)は乾式製錬、ニッケル工場(愛媛県新居浜市)は全面的に湿式製錬。なお、日本語では「精錬」という漢字もあるが、こちらはすでに高い品位の金属をさらに高めるときに使われることが多い。「Smelting」を製錬、「Refining」を精製とすることもある。

(乾式製錬)

高温の炉で原料鉱を溶かし、溶けた状態で金属を分離する製錬方法。一度に大量の処理が可能である一方、定期的に耐熱設備の補修が必要となる。

(湿式製錬)

金属や不純物が薬液に溶け、化学反応を起こすことなどを利用した製錬方法。安定して継続処理が可能な製錬方法であるが、薬液のコストがかかる。

3)金属原料

(硫化鉱)

銅・ニッケルなどの金属と硫黄が結合した鉱石のこと。製錬する場合、硫黄が燃えることで溶解させることができるため、乾式製錬を行うことが多い。

(酸化鉱)

金属が酸化した鉱石のこと。硫化鉱と違って熱して溶解する場合はエネルギーコストがかかるため、乾式製錬には不向きとされ湿式製錬の原料とすることが多い。

(銅精鉱)

銅製錬に用いられる原料で、銅が30%程度含まれており、残りはほとんどが硫黄と鉄。おもに硫化鉱から生産される。

現在、海外鉱山で採掘される「鉱石(Ore)」の品位はおおよそ1%前後であり、鉱山で選鉱を行って品位を高めた「精鉱(Concentrate)」の状態にしている。国内の銅製錬所が輸入している主な原料はこの銅精鉱となる。

(ニッケル酸化鉱)

ニッケル製錬には品位の比較的高い硫化鉱が主に利用されていたが、鉱石としては酸化鉱のほうが硫化鉱と比べて多く分布しており、現在の埋蔵量は硫化鉱3:酸化鉱7といわれている。これまでは製錬する際のコストや技術の問題がありあまり利用されていなかったが、当社はHPAL技術により低品位の酸化鉱からのニッケル製錬に成功した。

(MS)

ニッケル・コバルト混合硫化物(Mixed Sulfideの略)。CBNCで生産する、ニッケル品位約55~60%の中間原料。当社電気ニッケルの原料となる。

(マット)

金属の硫化物のことを意味する。ニッケル工場では、PTインコ社からニッケルマット(品位75~80%程度)を原料として購入して電気ニッケルを生産している。

(自山鉱比率)

自社の製錬原料のうち、出資鉱山に保有する権益により確保される原料の割合。一般的に、鉱山では出資比率に応じて原料鉱を引き取る権益を有する。ただし、セロ・ベルデ鉱山からの原料については、当社は2006年の稼働から当初10年間、出資比率(21%)より多くの買取権益(50%)を有している。

7)用語集

4)ニッケル生産プロセス

(CBNC)

当社子会社である、コーラルペイ・ニッケル・コーポレーション(フィリピン)の略。HPAL法でニッケル・コバルト混合硫化物(MS)を製造し、当社ニッケル工場(愛媛県新居浜市)に輸出している。

(HPAL)

High Pressure Acid Leach(高圧硫酸浸出)の略。

これまで回収が難しいとされていた、酸化亜鉛からニッケルを回収する技術。当社が世界に先駆け商業ベースでの実用化を行った。酸化亜鉛を高温高圧状態の硫酸と安定的に反応させることにより、高品位のニッケル原料を生産している。

(MCLE)

Matte Chlorine Leach Electrowinning (マット塩素浸出電解採取)の略。当社ニッケル工場で採用されている製造プロセス。マットおよびMSを高圧化で塩素に溶かし、電解法にて高純度ニッケルを生産する。他の製法と比べてコスト競争力があるが、操業技術は難しく、類似した技術で商業化している生産者は当社以外には2社しかない。

5)金属の主な用途

(銅の主な用途)

電線、銅管などに加工される。電力ケーブルのほか、民生分野では自動車や住宅関連の配線、エアコンなどに使われている。

(電気ニッケルの主な用途)

品位は99.99%以上。特殊鋼や電子材料、めっきなどに使われる。日本国内で電気ニッケルを生産しているのは当社ニッケル工場のみ。

(フェロニッケルの主な用途)

フェロニッケルはニッケル品位20%程度のニッケル・鉄の合金。ニッケル系ステンレス(ニッケル10%前後含む)が主用途。当社グループでは日向製錬所(宮崎県日向市)で生産している。

(金の主な用途)

世界的には投資・宝飾用の需要が多い。日本国内の産業用としてはやわらかく、伸びやすい特性をいかし、電子製品向けとしても多く使用されている。当社が生産した金も一部はグループ会社がボンディングワイヤーに加工し、販売している。

材料事業

(2層めっき基板)

原料となるポリイミドフィルムの上に、銅をめっきした基板材料。COFの材料として用いられる。当社は大型液晶ディスプレイ向けでは全世界で70%以上のシェアを有している。

(COF)

Chip on film。液晶駆動用ICに用いられる実装材料で、液晶パネルとICを接合する。

(L/F)

リードフレーム(Leadframe)。半導体チップとプリント配線板を結ぶ働きをする実装材料。ニッケルや銅を主成分とした合金が薄板状で用いられる。

(ボンディングワイヤー)

数十ミクロン単位の細さの金線。半導体チップの電極とリードフレームなどを結ぶ導電線として使われる。

(二次電池)

充電して再利用できる電池をいう。当社の電池材料は、車載用としてハイブリッド自動車、民生用としてノートパソコンの電源となる、ニッケル水素電池やリチウムイオン二次電池の正極材として使用されている。

ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社